

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：40124
 研究種目：若手研究
 研究期間：2020～2022
 課題番号：20K13139
 研究課題名（和文）誘出模倣課題による語用論的定型表現パフォーマンステストと測定・指導システム開発

 研究課題名（英文）Development of a Pragmatic Routine Knowledge Test and Instruction System Using an Online Elicited Imitation Test Module

 研究代表者
 大木 七帆（Oki, Nanaho）

 北海道武蔵女子短期大学・その他部局等・講師

 研究者番号：90846734
 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,400,000円

研究成果の概要（和文）：2021年度は、外国語学習環境における英語学習者の語用論的定型表現知識測定方法の開発を目的とし、誘出模倣課題モジュールを利用した大学生英語学習者68名の録音データを収集した。録音データは、日本人大学英語教員3名によって採点され、パフォーマンステストとしての信頼性、妥当性、実用性を検証した。この結果を基に、2022年度には大学生英語学習者17名を対象に、同モジュールを用いたメタ語用論的フィードバックを伴う指導を実施した。参加者の語用論的定型表現知識は事前、指導事後、および事前、遅延事後測定間で向上していることが明らかとなり、語用論的指導における誘出模倣課題の応用可能性を支持する結果となった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
 語用論的定型表現の指導と測定は、外国語学習環境において重要な課題であるが、第二言語学習環境と比較するとその検証は十分にされているとは言い難い。また、誘出模倣課題を含めた語用論的能力の測定方法の確立も課題となっている。本研究で開発した語用論的定型表現知識誘出模倣課題は、オンライン上でその知識測定と結果に基づく段階的な語用論的指導を可能とするものである。2つの調査（実証研究、指導）結果から、本研究で開発した誘出模倣課題の信頼性、妥当性、実用性が確認されており、今後はこの形式を用いた語用論的知識の測定と指導が高等学校や大学教育レベルで広く普及されることを望む。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this project is to develop a test called the Pragmatic Routine Elicited Imitation Test for assessing the pragmatic routine knowledge of English language learners. To evaluate its reliability, validity, and practicality as a performance test, we collected recorded data from 68 Japanese university English learners. The data were rated and analyzed by three Japanese university English teachers. Based on the findings, an instruction with meta-pragmatic feedback was conducted on 17 Japanese university English learners using the same module. The results showed a significant improvement in the participants' pragmatic routine knowledge between the pre- and post-tests, as well as between the pre- and delayed post-tests, supporting the applicability of the elicited imitation test both for pragmatic assessment and instruction in a foreign language learning context.

研究分野：中間言語語用論

キーワード：語用論的能力 語用論的定型表現知識 誘出模倣課題 パフォーマンステスト

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究は、語用論的定型表現知識発達のための教育的介入研究 (Oki, 2016)、語用論的定型表現知識測定の研究 (Oki, 2018) を基に着想している。これらの研究から示された課題として、学習者の語用論的能力の発達には、目標言語の複雑な言語形式を正しく理解、産出するための語用言語学的知識が重要であることが挙げられている。そのため、本研究では、語用言語学的知識の測定と指導を兼ねる誘出模倣課題を開発することとした。また、コンピューターを介して比較的大きな規模のデータを収集することで、測定方法としての妥当性を検証し、さらにそのテストモジュールを利用した指導への活用および普及を目指す。

2. 研究の目的

外国語学習環境において、効率的に語用論的能力を向上させられる学習システムのあり方を模索することを学術的問いとした。具体的には、(1)日本人英語学習者の語用論的定型表現(依頼・拒否・不同意・提案)産出能力測定のための語用論的定型表現誘出模倣課題を開発し、(2)開発した誘出模倣課題を用いた実証的研究を行い、(3)コンピューター上で段階的なメタ語用論的指導を行う学習管理システム拡張機能を開発することを目的としている。開発する拡張機能により、語用論的能力の指導と測定を高等学校、大学教育レベルで広く普及させることを目指す。

3. 研究の方法

(1)語用論的定型表現誘出模倣課題 (Pragmatic Routine Elicited Imitation Test: PREI Test)の開発には、Oki (2018) における 16 項目の語用論的定型表現(例、Could you please...?)を用いた発話行為主要行為部(例、Could you please email me the document later?)の作成、英語母語話者校正、録音を行い、初版を作成した(表 1)。その後、申請者が指導する大学の英語科目授業において予備調査を実施後、誘出模倣課題を改訂、完成させた。(2)の実証研究は、日本人大学英語教員 3 名が指導する大学生英語学習者 68 名の参加を得て調査を行った。採点は語用論的定型表現と語用論的定型表現を含む発話行為主要行為部をそれぞれ 2 値採点方式 (0/1) で採点し、さらに、学習者の録音データを質的に記録、分析することで、学習者が再現に困難を抱える表現を把握し、その後のメタ語用論的指導へ活用できるようにした。(3)最終版の誘出模倣課題はパフォーマンステストとメタ語用論的フィードバックを含む指導を学習管理システム Glexa (Version2. Inc) 上で実施可能としている。

表 1.

PREIT テスト文(語用論的定型表現を含む発話行為主要行為部)(大木, 2022)

語用論的定型表現	テスト文
How about...?	How about using this repair service I know?
Maybe you should	Maybe you should try saving more of your salary.
Why not...?	Why not just try to find another part-time job?
If I were you, I would..	If I were you, I would try to stop wasting money.
I'm sorry, but..	I'm sorry, but I have to study for my midterms.
Thanks for ~ but..	Thanks for the invite, but I will study alone this time.
I wish I could, but	I wish I could, but I have an appointment at that time.
I'd love to but..	I'd love to join you but I have a commitment that day.
Can I please..?	Can I please borrow a pen just for today?
Could you please..?	Could you please email me the document later?
Would it be possible to..?	Would it be possible to change my Friday shift?
I was wondering if..	I was wondering if you could give me an extension.
Yeah, but..	Yeah, but personally I like social media.
Actually, I..	Actually, I think SNS can be useful.
I have to disagree..	I have to disagree because it's a waste of time.
That may be true but..	That may be true but I'm not really sure.

4. 研究成果

2021 年度は、(1)語用論的定型表現産出能力の測定を目的とした誘出模倣課題(予備版)を用いた予備調査の結果を学術誌に投稿し、さらに(2)開発した誘出模倣課題を用いた実証的研究(本調査)を行なった。対象者は日本人大学生英語学習者 68 名であり、2020 年度に設計した学習管理システム(Glexa)上のモジュール設計を基に録音データを収集した(図 1 から図 3)。その後、オンライン上での録音データの採点、評価を日本人大学英語教員 3 名で行った。調査の結果、誘出模倣課題の形式を用いた英語学習者の語用論的定型表現知識の測定は可能であることを確認し、パフォーマンステストとしての信頼性および妥当性を確認した。一方で、本調査の参加者は複雑な形式の語用論的定型表現を含む発話行為主要行為部の再生に困難を抱えており、語用論

的定型表現の意味や機能，構造を含む明示的指導の重要性を示した。

図 1.
PREI Test (問題 No.1 説明画面)

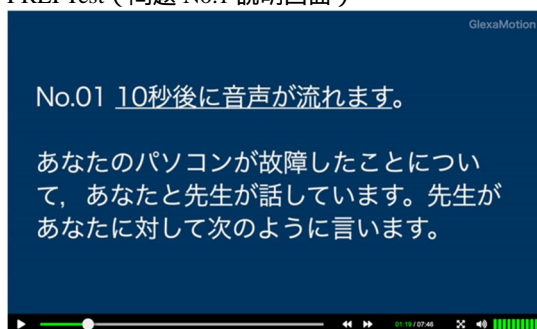


図 2.
PREI Test (問題 No.1 言語機能選択画面)

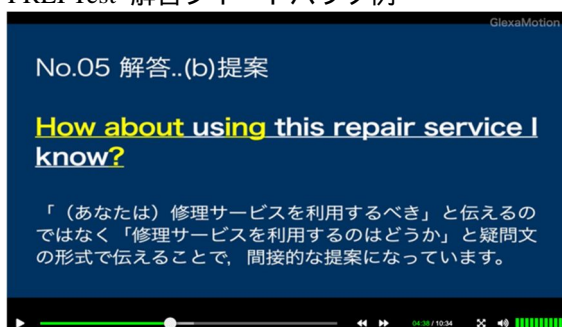


図 3.
PREI Test (問題 No.1 テスト文録音画面)



この結果を基に，2022 年度は日本人短期大学生英語学習者 17 名を対象に，オンライン誘出模倣課題モジュールを用いたメタ語用論的フィードバックを伴う指導を行った（図 4）。事前，指導事後，遅延事後測定の結果，参加者の語用論的定型表現知識は事前，指導事後および事前，遅延事後テスト間において向上が見られた。指導事後と遅延事後テストの結果には有意差がみられなかったものの，参加者数の少なさや指導時間の短さにもかかわらず一定の効果が確認されたことは，測定だけではなく，誘出模倣課題の語用論的指導への応用可能性を支持できるものである。現在，実証研究，指導研究ともに論文を投稿中であり，今後は誘出模倣課題を用いた測定，指導のいずれにおいても発話行為遂行の質的側面に関する課題を解決した研究を進めていきたい。

図 4.
PREI Test 解答フィードバック例



<引用文献>

大木七帆 (2022). 語用論的定型表現誘出模倣テストの開発と検証. *HELES Journal*, 21, 35–50.

Oki, N. (2016). Japanese EFL learners' knowledge and use of pragmatic routines: How can instruction help? (Unpublished master's thesis). Graduate school of Hokkai-Gakuen University, Sapporo, Hokkaido, Japan.

Oki, N. (2018). Japanese EFL learners' knowledge and use of pragmatic routine for suggestion, refusal, request, and disagreement. *HELES Journal*, 17, 3–18.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 大木七帆	4. 巻 21
2. 論文標題 語用論的定型表現誘出模倣テストの開発と検証	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 HELES Journal	6. 最初と最後の頁 35-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大木七帆	4. 巻 第54号
2. 論文標題 教科書・映像メディア・データ駆動型学習を統合した英語文法科目の授業実践 短期大学生英語学習者による授業活動有用性の認知	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 北海道武蔵女子短期大学紀要	6. 最初と最後の頁 115-137
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Nanaho OKi
2. 発表標題 The effect of instruction on Japanese EFL learners' pragmatic routine knowledge using the online Elicited Imitation Test (EIT) module
3. 学会等名 The 8th International Academic Forum (IAFOR) International Conference in Hawaii (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大木七帆, 大澤真也, 中西大輔, James Ronald, 水島梨紗, 田中洋也
2. 発表標題 語用論的能力測定のための尺度および教材開発 誘出模倣テストを用いた語用論的定型表現知識の測定と指導
3. 学会等名 外国語教育メディア学会関西支部メソドロロジー研究部2021年度第3回研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nanaho Oki, Shinya Ozawa, Daisuke Nakanishi, Lisa Mizushima, Hiroya Tanaka, James Ronald
2. 発表標題 Developing an elicited imitation test to assess EFL learners' knowledge of pragmatic routines
3. 学会等名 17th International Pragmatics Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大木七帆
2. 発表標題 日本人大学生英語学習者の語用論的定型表現知識測定のための誘出模倣課題の開発 -測定対象表現抽出から予備調査まで-
3. 学会等名 広島修道大学研究プロジェクト(ひろみら領域研究助成)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------